さいたま市長９月定例記者会見

平成２２年９月１５日（水曜日）

午後１時３０分開会

○　進　　行　　記者クラブの皆様、定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

なお、インターネットライブ中継をごらんの皆様におかれましては、本日の記者配付資料を既に掲載しておりますので、ダウンロードしていただければ、より一層わかりやすくごらんいただけると思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、記者クラブ幹事社のＮＨＫさいたま放送局さん、進行をよろしくお願いいたします。

○　ＮＨＫ　　９月の幹事社を務めますＮＨＫと申します。よろしくお願いします。

それでは、まず市長のほうからご説明をお願いします。

○　市　　長　　議題に入る前に一言ごあいさつを申し上げます。

長く厳しい残暑もようやくおさまり、秋の気配が感じられるようになってまいりました。ほっと一息ついていらっしゃる方も多いと存じます。

きょう９月１５日は、以前は敬老の日でございまして、これは高齢者を敬い、長寿を祝う行事でありますが、昨今所在不明の高齢者が多数見つかるなど高齢者を取り巻く社会環境は厳しくなる一方になっております。こういう時代であればこそ、もう一度家族の絆、また地域の絆、社会の絆を深めて、一層強く、よりしっかりとした人と人とのつながりをつくっていかなければならないと市長として改めて痛感をしているところであります。

今後も市民の皆様のご理解、またご協力をお願いをしたいと思います。

市長発表

議題１：「第１０回さいたま市環境フォーラムを開催します」

それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は２件でございます。

まず、議題１、「第１０回さいたま市環境フォーラム」の開催についてご説明をさせていただきます。

１０月２２日、金曜日より「探しに行こう！地球のためにできること」

をキャッチフレーズに、「第１０回さいたま市環境フォーラム」を開催いたします。

本フォーラムは、さいたま市環境基本計画に掲げます「自然と共生し持続可能な環境を未来ある子どものために伝える都市」の実現に向けて、市民、事業者、行政が連携、協働により、環境への取り組みを推進していくことを目的に実施するものでございます。１０月２２日の金曜日、２３日の土曜日には、さいたま新都心駅東西自由通路において、市民の皆様を初めとした各事業者の皆様が日ごろの環境への取り組みを披露する展示報告会を実施いたします。

本年は、企業等におけるエコ活動や小学校での児童の取り組みの展示ブースを拡充するほか、２３日には駅前の大宮カタクラパークウッディー広場にサテライト会場を設置し、電気自動車の展示や普及のためのＰＲを行う予定となっております。

さらに、１０月２９日の金曜日に、浦和コミュニティセンター多目的ホールにおきまして講演会を実施いたします。講演会の第１部では、基調講演として、登山を通じた清掃活動など環境問題に積極的な取り組みをされているアルピニストの野口健氏を講師にお招きし、「富士山から日本を変える」というテーマでご講演をいただきます。

また、東京ガス株式会社埼玉支店様による屋上緑化施設などの取り組みと、芝浦工業大学三浦研究室の学生による環境への取り組みについて発表していただくことになっております。

第２部では、「さいたま市環境保全標語・ポスター作品コンクール」入賞者の表彰式を行います。会場入り口に入賞作品を展示いたしますので、ごらんになっていただきたいと思います。

なお、展示報告会は自由見学となっておりますが、講演会については会場の都合上、往復はがきによる事前申し込みが必要となります。市民の皆様には、市報や市ホームページへの掲載、自治会や公民館等でのポスター掲示などを通じ、周知を行ってまいります。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

議題１については以上でございます。

市長発表

議題２:「平成２２年度さいたま市電気自動車普及促進対策補助金の二次募集を実施します。」

続きまして、議題２、「平成２２年度さいたま市電気自動車普及促進対策補助金の２次募集を実施します」についてご説明をいたします。

Ｅ－ＫＩＺＵＮＡ　Ｐｒｏｊｅｃｔの基本方針の一つであります「需要創出とインセンティブの付与」の一環としまして、電気自動車を導入する市内事業者の皆様に対して、その経費の一部を補助する「さいたま市電気自動車普及促進対策補助金」の２次募集を開始することにいたしましたので、発表させていただきます。

「さいたま市電気自動車普及促進対策補助金」につきましては、本年５月から申請の受け付けを開始したところ、翌６月には募集台数５台分が終了いたしましたが、受け付け終了後は、多くの方から補助金の再開を要望する声をいただいております。

また、本年１２月には日産自動車から電気自動車の販売が開始され、今後ますます電気自動車の普及も見込まれます。こうした状況を踏まえて、市内への電気自動車の普及に向けましては、さらなるインセンティブの実施が必要であると考え、このたび２次募集の受け付けを開始することといたしました。

受け付け開始は９月２９日、水曜日、午前８時３０分から、本庁舎２階の次世代自動車普及推進室で行いますが、申請用紙等につきましては、あすから市ホームページからダウンロードができることになっております。

補助対象者は、前回同様市内事業者の皆様とさせていただきますが、前回１次募集での補助を受けられた事業者の方は、申しわけございませんが、対象外とさせていただきます。補助額は１台当たり３０万円で、２０台を上限に予算の範囲内で申請を受け付けさせていただく予定になっております。

私からの説明は以上です。

市長発表関連質問

○　ＮＨＫ　　ありがとうございます。

それでは、市長からの説明についてご質問をお願いします。

では、済みません。議題の２についてお伺いしたいんですが、募集台数を増やされた背景とですね、市内の事業者に限っているという点はなぜかというところをご説明いただけますでしょうか。

○　市　　長　　今説明でも申し上げましたとおり、１次募集では１カ月ぐらいですぐいっぱいになってしまったということがございまして、２次募集をすることを検討してきたわけですけれども、今回は一応事業者のみに絞らせていただこうと。台数自体が２０台ということもございまして、基本的には事業者を中心にやっていくと。市民の皆様向けについては、来年度でさらに検討していきたいと考えております。

○　ＮＨＫ　　２０台に増やされたというところは。

○　市　　長　　やはり要望が非常に多いということと、ちょうど１２月から日産自動車さんのリーフが発売されるというようなこともございますので、そういった状況なども踏まえて今回２次募集を行わせていただいたということでございます。

○　埼玉新聞　　埼玉新聞です。

先ほど市民は来年度にというお話でしたけれども、額や規模というのはどの程度のことを考えていらっしゃいますか。

○　市　　長　　そうですね、まだちょっと詳細には検討が進んでおりませんけれども、ただ今回リーフの予約状況なんか見ますと、随分個人の方々が予約をされているということがあると聞いております。高額な物なので、ちょっと市民の皆さんにはなかなかすぐには購入することはできないかなと当初は予想しておりましたけれども、そういう意味では市民の皆さんも比較的補助金等がつくことによって買いやすい状況もできつつありますので、来年度はこの電気自動車の普及に向けて、そういった市民の皆さんを対象とする補助制度というようなこともかなり効果があるんではないかと感じておりますので、金額の規模とか、補助金の額とかということについてはまだ決めておりませんけれども、来年度予算の中で前向きに検討していきたいと思っています。

○日本経済新聞　　日本経済新聞です。

もともとこの２０１０年度に事業者向けに２５台という設定で予算組まれていましたか。

○　市　　長　当初は、最初５台であったんですけれども、１つは電気自動車と、あともう一つ、次世代自動車ということで環境をもう少し広い枠の中でとらえていく部分もあったもんですから、ただこの電気自動車に対する需要が少しずつ高まってきているということもありますし、市としてもこの電気自動車の普及促進に力を入れたり、あるいはモデル事業、実証実験などもスタートするというような背景もありますので、あえて電気自動車ということで絞った形で２０台新たに増やすというわけでございます。

○日本経済新聞　新たに補正を組まれたということではないんですか。

○　事務局　次世代自動車普及推進室です。

本年度についてはですね、例えばＣＮＧとか、ハイブリッドのバスとかトラックの補助金も次世代自動車の普及の補助金ということで、電気自動車も含めた形で大きくとっていたんですね。その割合、上期が終了してきましたので、その執行状況なども見ましてですね、少し電気自動車のほうに今回余っている分を寄せたという形になっています。ですから、補正ということではないんですね。

○日本経済新聞　もともとそういう次世代自動車向けの購入補助というのはどれぐらいの額で見ていらっしゃるんですか。

○　事務局　バス、トラックで言えば１，４００万ぐらいは持っていました。結構高額ですからね、改造なんかすると。その分補助すると１００万円ぐらいはいく場合もあるんですけども、もう上期終わってきまして、これから下期にかけてもう申請もほとんど出なくなる見通しも出ていますので、そこでこのタイミングで電気自動車も、ということですね。

○日本経済新聞　そうすると、半分近くが電気自動車向けのということになるんですか。

○　事務局　今回、ですから……

○日本経済新聞　６００万……

○　事務局　２０台ですから、３０万……

○日本経済新聞　最大で６００……

○　事務局　ええ、それを３００万円（会見後６００万に訂正）ぐらいですよね。それを少し寄せたということですね。

幹事社質問

１　在宅で介護保険を受けていない１６名の１００歳以上の高齢者の安否確認について

２　議場の改修について執行部としての感想は。

３　民主党代表選挙についての感想と期待について。

○　ＮＨＫ　　それでは、幹事社としての代表質問をさせていただきます。

３点ありますが、まとめて行いますので、よろしくお願いします。

まず、１点目ですが、９月２０日、敬老の日を前に在宅で介護保険を受けていない１００歳以上の高齢者の方は確認ということで、職員が直接訪問されるのかという点についてお願いします。

２点目が、議場の改修について執行部としての感想とかご意見をお願いします。

３点目として、昨日コメントをいただきましたが、民主党代表選挙について、菅さんが選ばれたということの感想と期待することについて教えていただきたいと思います。

○　市　　長　　それでは、お答えをさせていただきたいと思います。

まず、１点目の１００歳以上の高齢者の所在確認の問題ですが、在宅で介護保険の認定がされていない高齢者の方については、８月３日に行った電話や各民生委員の方々の訪問などによる調査の後、新たに介護保険認定申請を行うなどにより、介護認定による安否の確認ができた方が２名いらっしゃいました。介護保険で確認ができていない方は１６名いらっしゃったわけですけれども、そのうち２名がこの介護保険による確認ができて増えたと。それにまたそれ以外の１４名の方々につきましてはですね、未認定の方々の中には、相変わらず地域での活動を活発にしている方も何人かおいでで、これらの方々につきましては、市職員も含めて元気な姿を拝見することで安否の確認ができている方も既にいらっしゃいまして、この方々も含めて、ご指摘の１６名につきましては、先日高齢福祉課の職員がそれぞれご自宅を訪問させていただきまして、お声がけをさせていただき、確認がとれたということでございます。

今後も市職員はもとより地域全体で、あらゆる機会をとらえて１００歳

以上の方だけに限らず、高齢者の皆さんが地域で孤立しないように見守りをする、そんな仕組みをつくっていきたい、取り組んでいきたいと思っております。

２点目の議場改修についてでございますけれども、質問者であります議員の方々と私たち執行部とが直接向き合うと、対面するという形で行われますので、より緊張感がある議論ができたのではないかと思っています。

特に、やっぱり質問をするときに質問者の顔が直接見えるということはいいことではないかと思っています。こちらも言葉だけではなくて、いろんな表情も含めてお伝えをする部分もあるのではないかと思っておりますので、今回導入したこの対面方式によりまして、議会といい意味で緊張関係を保持しながら、互いに市政運営に責任ある立場で議論を深めていきたいと考えております。

続きまして、３点目でございますけれども、民主党の代表選挙、菅総理が再選をされたということについてですが、昨日もコメントで発表されておりますけれども、現在急激な円高に伴う経済政策、５人に１人の新卒者が進路がまだ決まっていないという雇用対策など、本当に早急に取り組んでいかなければいけない、国民生活に直結した課題が山積をいたしております。菅総理には、しっかりとしたリーダーシップを発揮をして、国民の声、地域の声にしっかりと耳を傾けていただいて、政治主導、地域主導、国民生活重視という志のもと、元気な日本の復活に向けて、これらの課題に果敢に取り組んでいただくことを期待をしたいと思います。特に一刻も猶予は許されないと思っていますから、新しい新内閣をできるだけ早く立ち上げていただいて、しっかりと政権運営に当たっていただきたいと思っています。

以上です。

幹事社質問に対する関連質問

○　ＮＨＫ　　では、代表質問の説明に関して質問のある方はよろしくお願いします。

○　埼玉新聞　　済みません、埼玉新聞です。

民主党の代表選挙のことなんですけれども、政令市の市長として、また地方自治体のトップとしては菅首相が続投という結果についてよかったと

お考えでしょうか、それとも小沢さんのほうがよりよかったのかなとお考えでしょうか。

○　市　　長　　そうですね、菅総理というか、代表についてはですね、これまで３カ月の実績あるわけですけども、ちょっと地域主権改革という視点で言うと、それをしっかりと推進をしていくというメッセージの発信については、ちょっと鳩山さんの時代と比べると、やや弱いんではないかという印象を持っていますが、それはまだこれまで３カ月間ということだったということで、これからはもう少しその地域主権改革の部分についても強力なメッセージを発信をしていただいて、強力なリーダーシップのもとにこの地域主権改革を推進するということを、もっと折に触れて発言をいただきたいと思っております。

○　時事通信　　済みません、時事通信です。

関連して民主党の代表選で、アピールするポイント・施策で雇用のことを菅代表がおっしゃっていて、当初予算でも雇用のことを重点的にやっていくとおっしゃっています。そうすると、財源のことになってくるかと思いますが、小沢前幹事長がひもつき補助金を一括交付金化することで財源の確保ができるというふうにおっしゃっていて、地方自治体の首長にも賛成意見もあれば反対意見もあります。市長のお考えをお聞かせください。

○　市　　長　　一括交付金についてはですね、私たちはこれまでも基本的には過渡的な措置として賛成をしてきました。ただ、代表選についての小沢代表の発言について、詳細なところまでは把握をしておりませんけれども、その全体の２１兆円をですね、少し７割ぐらいカットしてというような発言を……

○　時事通信　　３割ぐらいですね。

○　市　　長　　３割ぐらいはカットできるんじゃないかって、一括交付金にすればですね。それで、それを財源にしてという話という意味ですよね。それには、ちょっと中身を見ると、社会保障の部分であったり、どうしても地方の努力でとか、一括交付金化することによって工夫によって少なくできる裁量のある予算というのは極めて少ない金額ですから、それをそういう財源論と結びつけられると、ちょっと困ると。一括交付金は一括交付金としてやっていただきますが、これまでと同規模のものでしっかりやっていただくということが必要だと思っています。

その他

シルバー元気応援ショップについて

○　ＮＨＫ　　それでは、その他の質問に移らせていただきます。よろしくお願いします。

○テレビ埼玉　　済みません、きょうから高齢市民向けのシルバー元気カード、シルバー元気が始まりましたけども、それについていかがですか。

○　市　　長　　そうですね、今回新たな取り組みということでシルバー元気応援ショップというのをやらせていただいて、先週ぐらいから私も敬老会を回って、このシルバー元気応援ショップを宣伝させていただいているわけですけども、目的は、これまでもお話ししてきましたけど、高齢者の皆さんが健康で生き生きとした暮らしをしていくためのサポートを民間の商店街あるいはそういった事業者の皆さんと協力をし合ってやっていこうという制度でありますので、目標としては６００店舗を１年目は予定しておりましたが、既に７３９店舗ぐらいですね、ご協力をいただけることに現状としても既になっておりますので、これをできれば、これまで以上に充実をさせて、高齢者の皆さんができるだけ、やっぱり近いところで、地元の商店街でいろんな買い物ができたり、あるいはさまざまな趣味だとか、あるいは学びだとか、あるいは健康だとかというようなことで活用できるようにサービスの充実を図っていきたいと思いますので、これからもより一層、この制度を登録していただいている店舗を充実させるとともに、高齢者の皆さんにも、ちょうどカードが皆さん、６５歳のときにいただいたので、既に持っていないと、なくしてしまったという方も多いので、これらについても各区役所で再発行させていただいたり、あるいは区役所までとりに来れないという方については電話などでも対応させていただくような形で積極的にこれらを利用していただきたいと思っています。

その他

全国市民オンブズマン情報公開ランキングについて

○　埼玉新聞　　先日、全国市民オンブズマン連絡会議が全国都道府県の昨年度の情報公開度のランキングを発表して、さいたま市は１９政令市中最下位だったん

ですけれども、情報公開日本一を掲げるさいたま市として、この結果についてどのようにお考えでしょうか。

○ 市　　長　　まず１つは、今回のことについては、既にもう現在改善している点もあるんですけれども、１月１日時点ということで評価されたものでありますけども、そういう意味ではスピードという意味でね、ちょっと十分ではなかったということを反省をしております。もう少しスピーディーにやらなければいけなかったなと思っておりますけれども、こういったことも踏まえてですね、さらに情報公開。単に、私としてはオンブズマンの調査で１番になるということだけではなくて、やはり総合的な意味で、情報公開の日本一を目指していくということで、市民の皆さんにとってさまざまな形で情報がアクセスしやすい状況にできるように、これからも進めていきたいと思っています。

その他

草加市の議会解散について

○ 産経新聞　　済みません、産経新聞と申します。先日草加市の木下市長がですね、不信任案が可決されたことを受けて議会を解散しましたけれども、このことについて感想をお聞かせください。

○ 市　　長　　そうですね。詳細については私も把握をしておりませんが、前助役さんの事件をめぐって、それが適切でなかったというようなことの中で、そういう発言をされたり、議会あるいは広報などでそういったお話をされたりして、そのことが法を守る立場の首長からすると、行政の長からすると、適切ではないという判断の中で、ああいった不信任案が出たということだと理解をしていますけれども、詳しい状況が私自身もわかっていない中なので、余り詳細なコメントはしにくいところではありますけれども、木下市長さんのその発言の真意については、裁判で確定をしているものについて、あえてそうした公的な立場で、また公的な機会の中でそういった発言をするということについては、なかなかやっぱり理解がしにくかったんじゃないかなという気がしていますね。あえてなぜそういう形でやられたのかというのは、私自身は、今報道されているものの中だけでの判断だと、ちょっと理解しにくいなと思っています。それによって、この不信任案が可決をされて、今度は議会を解散するということになったわけですけども、

そうですね、やはり本来であればやっぱり議会の解散だけじゃなくて、ご本人の辞職と一緒にやるべきではなかったかなという気はしますね。もちろん１カ月近い空白ができるということを木下市長さんは心配されていたようですけれども、その辺、不信任案というものが通ったというのは議会の４分の３の議決ということでありますから、これはかなり重いと思いますので、もちろん首長の権利として２つの選択肢あるわけですけれども、私はいろんな時間的なことをあえて考えてやるとすれば、解散するのはいいと思いますけれども、ご自身もやっぱり辞職をして、一緒に信を問うという形のほうがわかりやすかったんじゃないかなという気はしますね。

○　産経新聞　できるならば、同時選が望ましかったのではと。

○　市　　長　そうですね。

その他

人形会館について

○　東京新聞　済みません、ちょっと古い話になるかもしれないんですけど、人形会館について議員さんと、一部報道でも、人形がちょっと壊れて、修復が必要だということがありまして、それについて市長から何か指示を出したり、調査したならば、その結果はどうなったのか、教えてもらえますか。

○　市　　長　人形会館の人形の部分についてですけれども、現在その購入した所蔵している人形について、調査といいますかね、中身をチェックさせていただいていて、一部修正、補修というんでしょうかね、が必要なものがございます。それが現在約４，３００点所蔵資料でございますけれども、そのうち約３２０点が修復対象となっているということでございます。修復といっても、全く新しいものにするんではなくて、古いものですから専門家の方々に、古いながらきちんと見ていただけるような、そういった状況に戻すということと聞いておりますので、今そういった作業を進めさせていただいているということです。

○　東京新聞　それは、補助金を出して買ったものなんですよね。

○　市　　長　そうです。

○　東京新聞　何か保管状況が悪くてなったとか、そういうものなんですか。

○　市　　長　基本的には、保存状況が悪くてということではありません。それで、こ

の経緯についてですが、いわゆる日本画家の西沢笛畝さんのコレクションをですね、これを持っていた長女の豊水さんという方がこの人形コレクションを展示公開する施設として笛畝記念美術館というものが越生にあって、これが閉館、運営が困難になって閉館されるということで、岩槻人形協同組合のほうに資料の譲渡の話が持ち込まれたと。その中で、岩槻の人形協同組合のほうがこれを購入されて、その一部を市の補助金として支出をしたと。これ全部で約４，３００点あって、そのうち補助対象になったのが１，７２０点、これは日本人形を中心としたものですね。それが購入したものなんですね。そして、それ以外に東南アジアの人形とか世界の人形とか、郷土人形みたいなものが約２，６００点あって、これは寄贈いただいたというもので、この１，７２０点の購入資金のうち半額を、購入額が３，８３２万５，０００円だったんですけれども、その半分１，９１６万２，０００円を補助金として平成１７年８月１９日に支出をさせていただいたという状況でございます。現在は、その人形会館の建設準備をしておりますので、それらの中で展示などを行っていく上で、その修復作業というのは、並行してやらせていただいていると、こういうことです。

これまでの保存の状況も言っておきましょうか、そうしたら。

○　**東京新聞**　いや、いいです。これは、修復作業をするのに、幾らぐらいかかるという試算見ていますか。

○　**市　　長**　ちょっと待ってくださいね。じゃ、担当、済みません。

○　**事務局**　文化施設建設準備室長です。昨年度の実績で一応６０万円の経費がかかってございます。これ修復費でございます。それから、今年度は一応１２０万の予算の計上ということで、今修復を進めております。

○　**市　　長**　よろしいですか。

○　**東京新聞**　ありがとうございます。

その他

菅代表の続投について

○　**埼玉新聞**　ちょっと最初の質問に戻ってしまうんですけど、民主党の代表選挙の関係で、菅首相の続投という結果について妥当だったとお考えでしょうか。どうも地方票、サポーター、党員票が圧倒的に菅代表のほうに多かったとか、その辺の細かいところの感想をお聞かせいただければ。

○　市　　長　　基本的には、民意が反映された妥当な結果だと思っています。国会議員の部分が、当初は小沢さんのほうが有利ではないかと、かなり小沢さんのほうがとるんではないかというふうに言われていましたけれども、最終的に民主党の議員さんも、やはり世論とか、党員、サポーターの皆さんのね、そういった意向だとか意見などを踏まえて投票されたんだろうと思いますので、そういう意味では総合的に考えると妥当な結果ではないかと思います。

その他

枝野幹事長について

○　**朝日新聞**　　済みません、関連してですね、枝野幹事長の退任がですね、濃厚になってきているという情勢なんですけども、その辺の市長の受けとめ、地元でもあるんですけれども、その辺の受けとめはいかがですか。

○　市　　長　　そうですね……まだ決まっていないので、ちょっとコメントしづらいですけれども、参議院選挙ということで考えると、やはり民主党が想定をしていた数よりは、議席が十分とれなかったということがあったと思いますので、その中で、その責任者である幹事長が、ということについては、そうですね……幹事長の責任だとは私自身は思っていませんけども、ただ責任者という立場であると考えると、やはり仕方がないのかなとは思いましたけどね。ただ、まだ決まっていないので・・・・。

その他

民主党代表選について

○　**埼玉新聞**　　今回の代表選なんですが、政策的には昨年の衆議院選挙のマニフェストの修正主義と原理主義の対決という構図だったんですけれども、市長としてはどちらのほうにより共感を覚えられますか。

○　市　　長　　そうですね、今言ったマニフェストを貫いていくのか、あるいは少し修正をしていくのかという、どちらを選ぶかということについては、後者のやはり修正をすべきものは修正すべきだと思っています。特に子ども手当の問題含めてですね、やはり財源が非常にかかるマニフェストが非常に多かったという印象を私自身は持っていますので、それを現状の経済情勢だとか財政状況だとかというものをしっかりと踏まえてね、また地方の声、あるいは国民の皆さんの声をしっかりと踏まえて、それらを修正していく

ということは決しておかしいことではないと思いますので、それはきちっと説明責任を果たされ、説明をしていく中で、理解をしてもらうように修正をしていけばいいんではないかと思いますので、むしろ現状のままのマニフェストでこれを突っ走るとなると、財源問題等々ですね、ちょっと逆に言うと大丈夫かなという、そういう印象を持っています。

○　ＮＨＫ　ほかに質問のある方はいらっしゃいますか。

それでは、きょうの記者からの質問は終わらせていただきます。ありがとうございます。

○　進　　行　先ほど電気自動車普及促進対策補助金の中で、事務局のほうから数字がちょっと間違っていましたので、訂正させていただきます。

○　事務局　先ほどのご質問で、総額３００万と申しました。６００万の間違いです。訂正させてください。

○　進　　行　それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は１０月７日、木曜日、１３時半からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

午後２時０７分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし下線を付しています。